

高大接続システム改革会議「最終報告」に向けて 概要

高大接続システム改革に対する国立大学協会の考え方

○平成 26 年 8 月 22 日の「今後の国立大学の入学者選抜の改革の方向について」の声明及び本年 9 月の「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」のとおり、国立大学は高大接続改革実行プランが提起する現状認識と問題意識を共有。

○国立大学が責任を持って高大接続システム改革を担い推進する観点から、今回、全国立大学に対するアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、「中間まとめ」を総括するとともに、「最終報告」に向けて、国立大学協会としての提言を発出。

大学教育改革と高大接続

○高大接続システム改革において国立大学が主体性を持って取り組むべき最優先の課題は、新時代人材の育成に向けた新しい教育の創生とその実施であり、それを高等学校や受験生に正確に情報を発信することにより、適切な高大接続を図ること。

○したがって、各国立大学は、学生の入学から学位授与に至るまでの一貫した方針を具現化するものとしての 3 ポリシーの見直しの準備を早急に進める必要。

○国において策定するとしている「3 ポリシーの策定と運用に関するガイドライン」は、各大学の自由度や個性、創造性を阻害し国立大学の機能強化の方向性に水を差すものであってはならない。

○各大学の高大接続システム改革を適切に評価し更なる取組につなげるための認証評価制度の改革及びその実施に当たっては、各大学の多様性や個性、創造性・新規性の高い取組にも十分な配慮がなされるとともに、国立大学法人評価との整合性を図った上での議論も行われるべき。

高等学校教育改革に望むこと

○高等学校教育には、主体的に活動するための基礎的・基本的な知識・技能と汎用的な能力を確実に育成することを期待。

○したがって、次期学習指導要領においては、教科・科目の精選を通じて、適切な必修科目の科目数・単位数（時間数）の設定を図るべき。

○国立大学は、3 ポリシーの明確化や個別選抜試験改革を通して、高等学校教育改革の推進役としての役割を果たすと同時に、高等学校との連携等を図ることで、高校生の学習の成果を大学教育や入学者選抜に反映する不断の努力を行う。

新しい共通試験システムの実現に向けて

○新たに導入される二つの共通テストについては、具体的な試験内容・方法等に関して今後の検討に委ねられている部分も多いため、スケジュールありきの検討は避けるべき。

○「高等学校基礎学力テスト（仮称）」については、試行実施期間以降の大学進学や就職への活用は検

討課題とされ、その性格・目的に曖昧さが残っているので、明確化がなされるべき。

○「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の制度設計に当たっては、評価も高く広く受け入れられている現行の大学入試センター試験の検証・評価を踏まえて検討が行われるべき。「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」については、いまだに具体的に検討すべき課題が山積しており、拙速を避け、段階を踏まえた着実な実行計画の検討と準備が必要。そのため、国立大学協会の参画を前提とした「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施方法等の具体的制度設計のための体制づくりが盛り込まれるべき。

個別大学における入学者選抜改革に向けた考え方

○今回の高大接続システム改革の評価が、広く社会に受け入れられるまでの間、国立大学は3ポリシーとの整合性を図るため、個別の入学者選抜においては個別学力検査を実施するものと想定。

○大学の実施体制や高等学校に及ぼす影響に鑑みると、短期間で全ての入学者選抜を多面的・総合的評価に転換することは相当な困難を伴うものであり、各大学はアドミッション・センターの新設・拡充、アドミッション・オフィサーの充実・強化など新たな入試体制の構築を前提に、多面的・総合的評価の充実に向けた改革を加速していく。そのためには、国の財政支援や改組が予定される大学入試センターによる個別大学の選抜方法開発や専門人材育成に関する研究の推進を期待。

入学者選抜ルール改訂の必要性と入学者選抜に係る「国立大学協会の基本方針」

○一般入試、推薦入試、AO入試の区分を廃止する新たなルールは、複数の受験機会の確保や選抜方法の多様化が担保される仕組みとすべき。

○新ルールの実施に当たっては、十分な大学の準備と社会への予告の期間が必要であり、早急な検討が求められ、国立大学協会も参画する検討体制の早期構築を望む。

入学定員管理の在り方について

○アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに忠実な入学者選抜の結果、定員超過あるいは未充足が深刻な問題となる懸念。国立大学入学定員管理に関する考え方の早期整理を望む。

グローバル人材の育成に向けて

○グローバル人材の育成に向けては、英語による教育の場の拡充など、国際的な視点でのカリキュラム・ポリシーの見直しも論点とすべき。

○国内の高等学校と大学との接続のみならず、留学生の増という政策目標にも対応するよう大学教育を受けるために必要な資質・能力をグローバルな観点で評価・選抜するシステムを構築する必要。

国立大学協会の関与

○国立大学協会としては、実効性ある改革が実現されるよう、今後の議論・検討に積極的に参画。